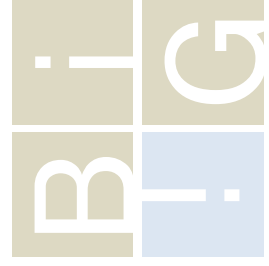


障害者の 芸術活動への 支援を推進するための懇談会

国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)
事業運営受託者 ビッグ・アイ共働機構



国際障害者交流センター ビッグ・アイとは

About BiG-i

「国連・障害者の10年」を記念し、障害者の「完全参加と平等」の実現を図るシンボル施設として、厚生労働省により建設。平成13年9月にオープン。大阪府の外郭団体による運営の後、平成21年行政刷新会議の評価の結果、委託先および事業運営の見直しが行われ、事業委託公募によりビッグ・アイ共働機構が受託。ビッグ・アイ共働機構で行う障害者の芸術文化活動をはじめとする委託事業は年間約50事業、約15,000人が利用（参加）している。

《所在地》

大阪府堺市南区茶山台1-8-1
泉北高速「泉ヶ丘」駅より200m
南海「なんば」駅より約26分

《施設規模》

地下1階・地上3階
敷地面積：7,901.47㎡
延べ床面積：11,917.19㎡

《開設年月日》

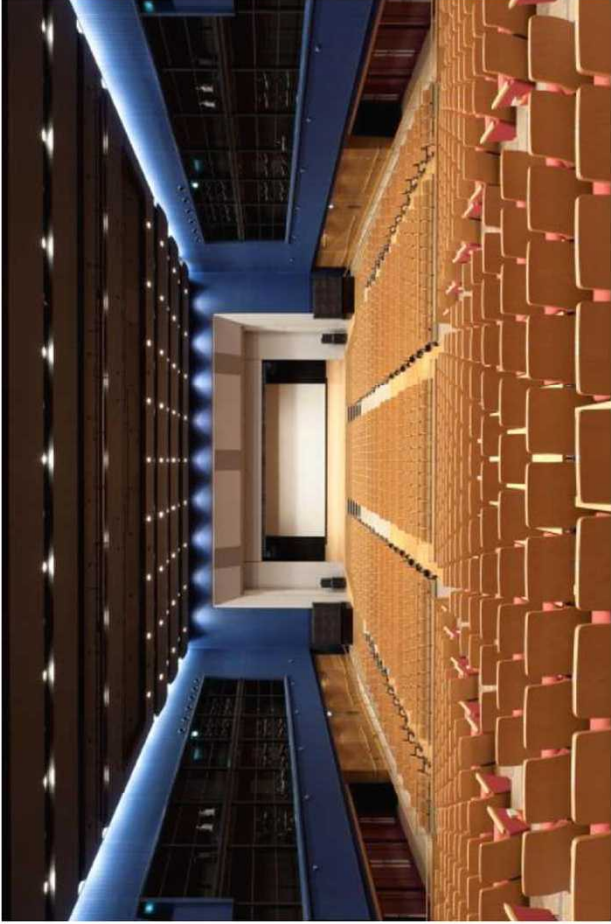
平成13年9月18日



About BiG-i

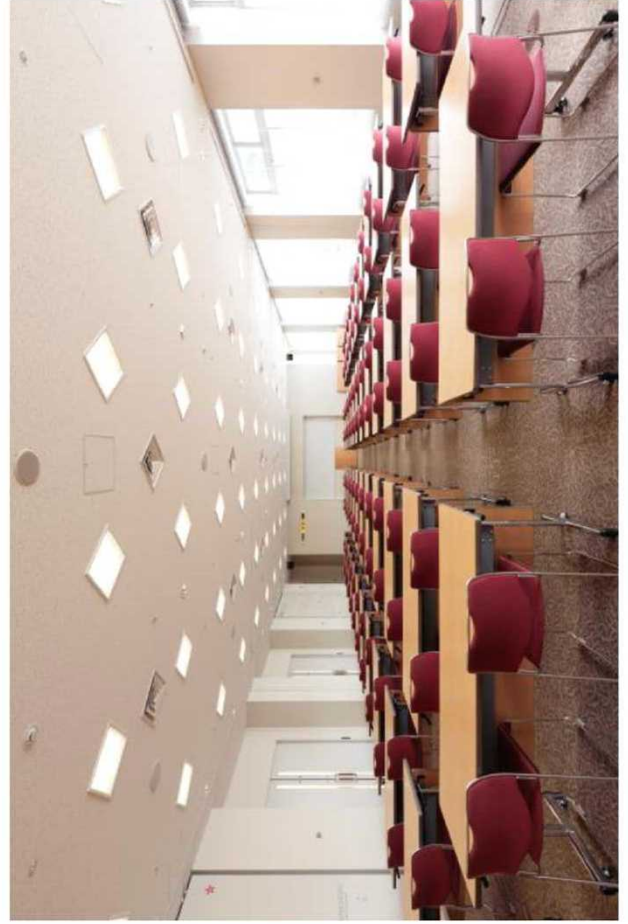
多目的ホール

- 客席:最大1,500席
- 車いす席:最大200席
- 車いす席利用の場合 客席:約1,000席
- 9面マルチスクリーン 2台(舞台左右両側)



研修室

- 全6室
- 大研修室(1・2) 最大約150名収容
 - 中研修室(3・4) 最大約90名収容
 - 小研修室(5・6) 最大約60名収容



About BiG-i

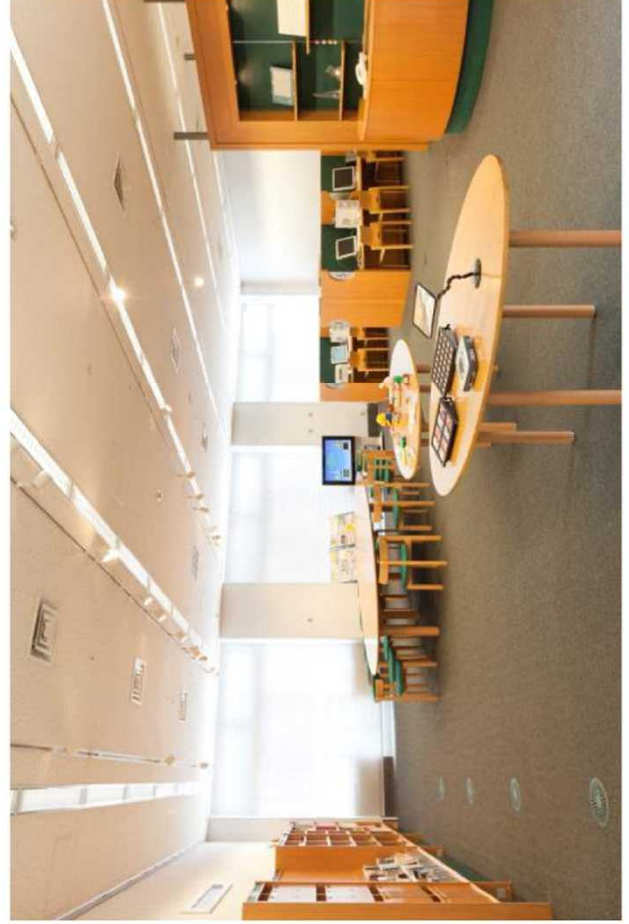
宿泊室

- 洋室(ツイン) 26室
- 和室 6室
- 和洋室 2室
- 洋室(特別室・重度障害者用)1室



その他

- バリアフリープラザ(フリースペース)
- レストラン
- 駐車場
- 多機能トイレ etc



About BiG-i

基本理念

1. 障害者が主役

障害者が支援されるだけでなく、事業へ多様な形で参加し、様々な場面で活躍できる施設を目指します。

2. 芸術文化活動や国際交流を通して障害者の社会参加を促進

芸術文化をツールに障害者の7社会参加を促進します。
世界各国や地域の障害者や障害者団体、関係機関との国際交流、国際協力を促進します。

3. 多くの人に親しまれる施設

施設が共生社会のモデルとなるよう、障害者だけでなく、広く障害のない人の利用を促進することで交流できる場、相互理解のきっかけとなる場を提供し、共生社会の理念の普及啓発や社会教育を充実させます。

理念に基づいた事業

施設の基本理念の実現のため、障害者福祉の推進を図るため、以下の4つの事業テーマに沿って事業を展開していきます。

《4つのテーマ》

- (1) 国際交流・国際協力
- (2) 障害者の芸術・文化の発信
- (3) 全ての障害者の交流
- (4) 大規模災害時の後方支援

理念に基づいた事業

(1) 国際交流・国際協力

- ①芸術・文化や障害者福祉、就労、障害者支援など様々な切り口で海外の専門家や関係機関、団体などとの協力や交流によって国際的な福祉の動向や情報を発信できる施設として事業を展開します。
- ②障害者の国際感覚を養う研修や芸術文化活動による交流のほか、アジアを中心とする発展途上国のモデル施設となる事業をおこないます。

(3) 全ての障害者の交流

- ①福祉に関する情報提供や生活相談などの情報拠点となる施設を目指します。
- ②障害の種別や程度に関らず利用や参加できる事業を運営します。

(2) 障害者の芸術・文化の発信

- ①障害者の社会参加と自己実現のツールとして事業を展開します。
- ②障害者自身による質の高い音楽祭や芸術祭、アート展の開催など自身の可能性や夢に繋がる事業を展開します。
- ③芸術を身近に触れ、体験し創造する場を提供します。

(4) 大規模災害時の後方支援

- ①東日本大震災や阪神淡路大震災の教訓に照らし、周辺地域が災害を受けた場合の福祉避難所として後方支援できる施設とします。
- ②被災障害者や災害時要支援者の支援活動をおこなうボランティアリーダーの育成事業及び視聴覚障害者の特性に対応した支援リーダーの養成事業をおこないます。

2

障害者の 芸術文化活動事業について

Art Program

芸術は、人に感動や喜びを与え、心豊かな時間を与えてくれるものです。また、多様な表現は、人の多様性を認め、互いを認め合い理解し、つながりを深める力もあります。障害の有無に関係なく、すべての人が「人生を豊かにする」時間を共有できる社会をつくることを目的に事業をおこなっています。

ビッグ・アイでの芸術文化事業は、アートプロジェクト(ビジュアルアート)とシアタープロジェクト(パフォーマンス・アート)を中心に障害のある人たちが芸術文化活動に参加できるロールモデルとなることを目指しています。

そのためには、サポート体制や情報保障を整備するほか、その必要性を社会へ発信できる事業を展開しています。

《主な事業》

体験・創造する

- ①ビッグ・アイ アートキャンプ(アートワークショップ)
- ②ビッグ・アイシンガーズ(シアターワークショップ)

発掘・育成する

- ①ビッグ・アイ アートプロジェクト 作品募集
- ②夢カナエルプロジェクト

鑑賞する

- ①ビッグ・アイ ステージ／ビッグ・アイシネマ
- ②ビッグ・アイ アートプロジェクト 企画展

発信する

- ①ビッグ・アイ アートプロジェクト 入選作品巡回展・国際交流展
- ②シアターが考えるバリアフリー
- ③情報紙「i-co(あいこ)」の発行

ビッグ・アイ・アートキャンペーン

一泊二日の滞在型アートワークショップ。
25年度は、視覚に障害のある方も触覚(手のひらなど)による鑑賞や創作のできる砂絵アートの合同作品製作と鑑賞会を実施予定。

《マリスとは》

視覚に障害のある人をはじめ、すべての人が鑑賞可能な新たな絵画の手法。従来の「砂絵」と違い、砂の粒子の粗さで明度を、ハーブエッセンシャルオイルの香りでさまざまな色を表現する。



Art Program

ビッグ・アイシンガーズ

障害のある人もない人も一緒に、秋のコンサートでのステージ発表を目指して練習を重ねる歌のワークショップ。
昨年は4回のステージを経験、ゲスト歌手との共演もあった。

《講師》human note

関西を中心に活動するシンガーソングライター寺尾仁志がディレクションする700名のシンガーズ。年齢・性別に関係なく、歌うことが好きで集まったメンバーが歌を届ける。その歌を聞いてくれた人が元気になる！そんな人々の笑顔により、歌を届ける自分たち自身も元気になる！！そんな「ウタのある人生の充実」をテーマに活動している。



Big-i Singers

歌う門には福きたる!!

Sing! and be happy!! Supported by human note

ビッグ・アイシンガーズ 参加者募集!

音楽が大好き、歌が大好き そんな仲間が集まって、つながりあう。
楽しいワークショップにあなたも参加しませんか♪♪♪

参加無料

初参加歓迎

2013 6/29(土) 7/15(月・祝) 8/3(土) 9/28(土) 10/6(日)

2014 1/19(日) 2/15(土) 3/16(日)

※基本的にすべての回に参加していただくようお願いいたします。

■会場：ビッグ・アイ 研修室 ■定員：30名(応募多数の場合は抽選) ■応募締切：2013 6/2(日) 必着
■応募：ハガキまたは封書、FAX、Eメールに必要事項をご記入の上、ご応募ください。
※詳しくは、お問合せいただくかビッグ・アイホームページをご覧ください。

練習日時

各日14:00~16:00

ビッグ・アイ

アートプロジェクト 作品募集

国内外でアート活動をおこなっている障害のある人たちの作品を募集し才能ある作者やクオリティーの高い作品を発掘し紹介する。アーティストたちへの夢や可能性に繋がるコンテストを開催している。選定は、全て実物による審査をおこなっている。
(海外からの応募は1次写真審査あり)

《審査員》

西村陽平(造形作家)
秋元雄史(金沢21世紀美術館館長)
上田バロン(イラストレーター)
柿沼康二(書家・アーティスト)
永野一晃(写真家)

《募集内容》

国内外を問わず、障がいのある人が制作したアート作品で未発表のもの。

《出品規格》

絵画、イラスト、グラフィックデザイン、書、写真、造形など。
素材やテーマは自由。

《入選特典》

入選作品は、国内数カ所の巡回展で展示するほか、入選作品集(図録)に掲載。オリジナルグッズの作成など。



Art Program

夢力ナエルプロジェクト

表現者として、企画者として、様々なアート活動をしていく中で持つ夢をビッグ・アイと共に実現するプロジェクト。ビッグ・アイの専門スタッフと一緒に企画から本番まで公演制作を企画者自身が経験し、公演制作に必要なノウハウを学び、人とのネットワークづくりを図る。

24年度は、演劇活動する障害者自身が脚本から主演を務めた一人芝居「闇の中・輝く命」と、コンサートを企画・プロデュースした「懐かしの音楽と世界の名曲コンサート」を実施。



Art Program

ビッグ・アイステージ

国内外の質の高い芸術やプロで活躍している障害者アーティストによる公演や映画を障害の種別に関係なく誰もが鑑賞できるサポート付の公演(上映)会。
障害のある人もない人も同じように芸術を楽しむ感動できる時間と空間を提供。

東西狂言会 バリアフリー狂言でござる

《出演》

茂山千五・郎野村萬斎ほか

《演目》

大藏流狂言「棒縛」
和泉流狂言「蝸牛」

《サポート体制》

手話／字幕

音声補聴

状況放送

点字パンフレット

拡大文字パンフレット

演目ガイド(絵本スタイル)

補助犬同伴可

車いす席(100席)

特別鑑賞スペース(10名)

ビッグ・アイステージ 東西狂言会

バリアフリー 狂言でござる

和泉流狂言
「蝸牛(かきゅう)」
山内/野村萬斎
主 角 大藏流狂言
「棒縛(ぼうしほり)」
太郎冠者/茂山千五郎
次郎冠者/茂山正邦
主人/綱合正美
後見/井口竜也

解説 野村 萬斎

定員:1,200名
(要事前申込)
※観覧席以上

2013年4月20日(土)
開演14:00[開場13:30]/終演15:30

観覧無料

◆会場:ビッグ・アイ(国際障害者交流センター)多目的ホール

手話通訳
要約筆記
副音声ガイド
音声補聴
補助犬同伴可

Art Program

ビッグ・アイシネマ

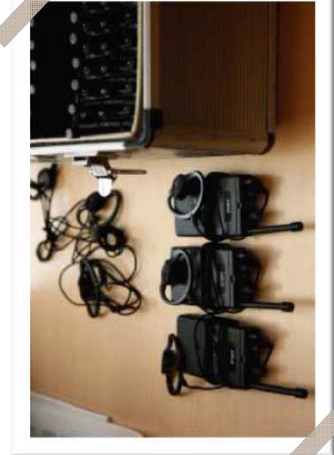
国内外の質の高い芸術やプロで活躍している障害者アーティストによる公演や映画を障害の種別に関係なく誰もが鑑賞できるサポート付の公演(上映)会。
障害のある人もない人も同じように芸術を楽しむ感動できる時間と空間を提供。

ビッグ・アイシネマ 最強のふたり

さあ、人生に繰り出そう。
インテリでシニカルな全身不随の大富豪と、
粗野で愛嬌モノの黒人青年、
出会うはずのないふたりに起こった、最高の奇跡とは？

《サポート体制》

手話
字幕
音声補聴
状況放送
点字パンフレット
拡大文字パンフレット
補助犬同伴可
車いす席(100席) など



アートプロジェクト企画展

障害のある人もない人も鑑賞できるアート作品の展示や才能ある障害者アーティストの作品を紹介する企画展を実施。

《実施例》

- さわる絵本展
- アートプロジェクト 海外作品展
- 世界のバリアフリー絵本展
- 高橋りく マリス 個展 in ビッグ・アイ



アートプロジェクト

ト入選作品展

アートプロジェクト作品募集の応募作品から選ばれた入選作品50点を東京・横浜・大阪にて巡回展示。視覚障害者への鑑賞サポートとして作品の音声ガイドをDAISYにて行っている。

《2012年度展示会場》

東京：Bunkamura Box Gallery

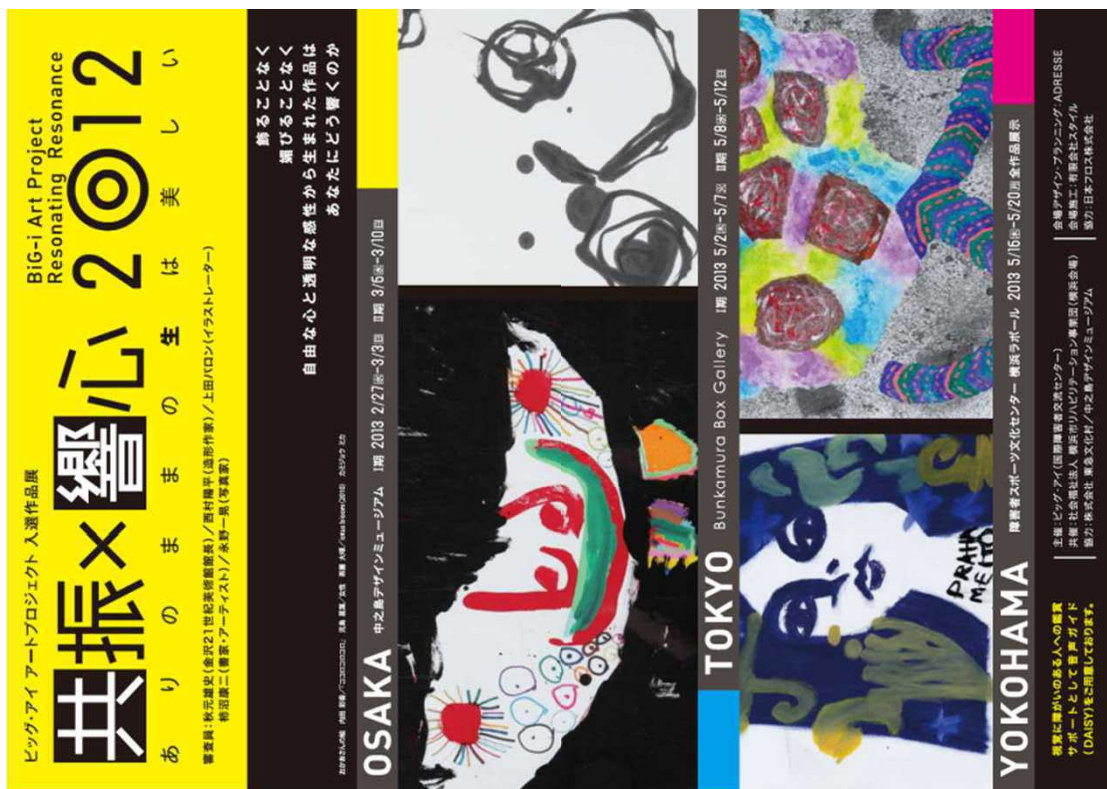
横浜：障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール

大阪：中之島デザインセンター de sign de >

韓国：ソウル市立慶熙宮美術館 第1展示室
スリランカ

《関連イベント／アートワークショップ》

- BiG-i★Zoo 夢の動物園をつくろう！
- お散歩カメラ ■ 見えない中に見えるもの
- 楽しく自由に楽しいで書っ ～感性からのメッセージ～



シニアが考えるバリアフリー

障害のある人たちが、自身の住む地域や日常の行動範囲の中で、もっと身近に気軽に芸術に芸術を楽しめる参加の機会を促進するため、全国の公立文化施設にむけて現状の取り組みを調査し報告書にまとめた。

今後は、この調査結果をビッグ・アイの事業をモデルケースにしたマニュアルを作成するほか、研修事業等にも積極的に取り組んでいく。

この調査をきっかけに都道府県、市町村からのバリアフリー事業運営におけるサポートについての問い合わせや文化施設からの見学、研修の依頼なども増えた。

《調査の方法》

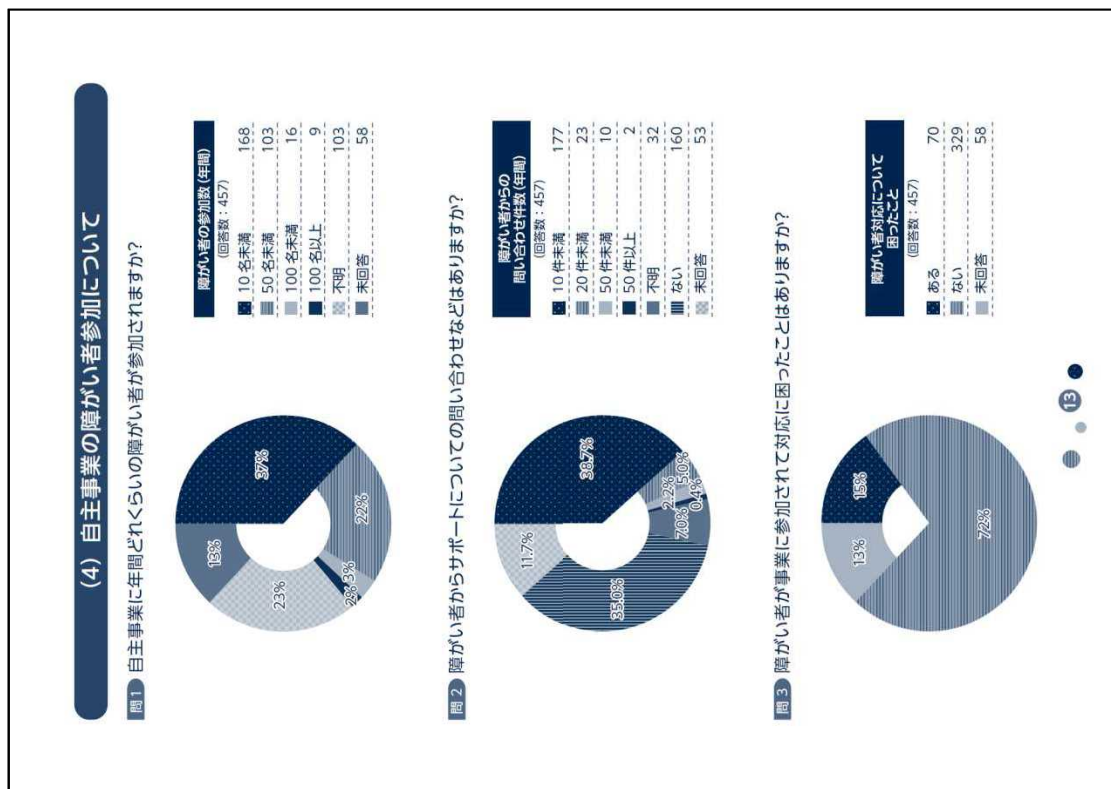
- 調査地域：全国
- 調査対象：公立文化施設
(全国公立文化施設協会に登録している1,247施設)
- 調査方法：郵送によるアンケート配布および回収

《回答数》

- アンケート調査票送付数 1,247施設
- 回答数 457施設
- 回収率 36.6%

《調査項目》

- 障害者サポートの実施状況
- 障害者の施設利用数
- 障害者サポートに対する意識 など



情報紙「i-co」の発行

障害や福祉・障害者の芸術文化、それを取り巻く社会をテーマに国内外の出来事・人物、モノにスポットをあてた特集記事やビッグ・アイでおこなわれる事業の情報などをタブロイド紙にして発行している。

《仕様》

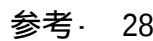
サイズ:タブロイド版 4ページ

発行部数: 16,000部

発行回数：年4回(2012年度は6回)

《先送殓》

ビッグ・アイの利用者や、地方公共団体障害福祉担当課、全国の社会福祉協議会、支援学校、障がい福祉関係団体等へ配布



ビッグ・アイの課題

3

Problem

現在ビッグ・アイが、おこなっている障害者の芸術文化支援事業において取り組まなければならない課題は以下の項目です。

1. 展示スペースの充実

【現状】施設内のフリースペースおよび研修室で可動式美術用パネルで展示

2. アート作品の保管場所

【現状】温度調整のできる倉庫で保管

3. 舞台（ホール）設備の改修と改善

【現状】研修室を楽屋として利用／リアルタイム字幕を9面マルチに出カ→タブレットタイプを検討中

4. 障害者芸術における相談機能窓口の強化と周知

【現状】正式な相談窓口として周知していない。

5. 全国の障害者を対象とした事業の拡大

【現状】巡回展のみ（東京・横浜）

6. 公共・民間の文化施設との協力体制およびネットワークの構築

【現状】シアターが考えるバリアフリーの配布／文化施設からの相談および問い合わせ対応・見学受け入れ
研修事業への講師派遣

最後に

4

Afterword

ビッグ・アイは、障害のある人たちの社会参加や日々の生活向上を目指し芸術文化事業を行っています。障害のある人たちが、身近に芸術に触れ感じることができるような配慮とバリアフリーが社会に拡がれば、障害のある人たちだけではなく、高齢者や子どもなど、誰もが心豊かな人生をおくれると思っています。多様な個性と表現を受け入れ認め合える芸術が共生社会を育むうえでの大きな力となることを信じて、今後も事業に取り組んでまいりたいと思っています。

